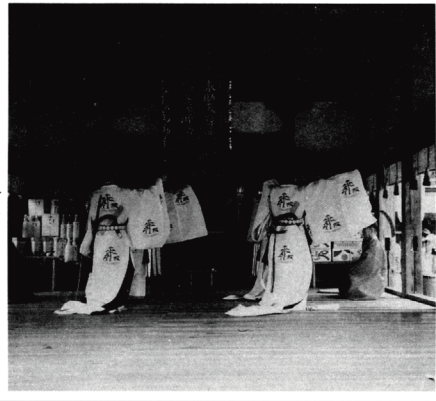




# 田島放生会

## 秋晴れに恵まれ



神郡宗像に秋の訪れを告げ、古くから「田島放生会」の呼び名で親しまれてきた。当秋秋祭大祭が十月一日から三日迄爽やかな秋空のもと厳肅かつ盛大に進行された。



本年は台風の影響もなく、大祭の諸準備は地元総代、協力会、役員等の奉仕により、九月二十日迄に完了。午後五時終社地主祭、同六時より宵祭が進行され、翌日からの大祭が無事進行される。

十月一日、大祭の初頭を飾る海上御神幸のみあれ祭は、午前七時半から四時迄の約四隻の船四隻の大島を出発。海上に、玄馬、重たな海上神幸の後、神後港に入

典は厳肅に進行された。翌一日、午前八時より流籠馬が行われ、福岡町の宮木父子松尾氏が鳥帽子と直垂姿に威儀を正し、神門前に設けられた馬場を三頭の馬が疾走。地上約七メートルの軌跡を、次々と矢を射ると、拝観者から盛んな拍手が贈られた。

午前十一時秋祭大祭一日祭を進行、神社庁宗像支部長大光光信司、諏訪神社宮司、外一名による郡内神職奉幣の儀、宮地嶽神社献幣使、宮久嶋権宮司、氏子奉幣使新海伍郎氏、津屋麩による奉幣詞奏上。次いで福岡喜多流の能楽師、梅津

### 宗像大社 氏子会総代総会

秋祭大祭も間近に迫った。九月二十日午前十一時より、宗像大社氏子会総代総会が、当大社明殿に於て開催された。

当日は出光氏子会長を始め、郡内各支部より評議員並びに総代百余名が出席、当社より総代交代以下事務局長が出席して、定例会議された。

始めに秋祭大祭典日程並びに神賑行事予定を、担当神職が説明、氏子総代各位の参拝をお願いした。

また、秋祭大祭の氏子奉幣使について、当番町、津屋崎町より選出していたが、ご承知のとおり、後刻津屋崎町の評議員、総代で協議され、勝浦地区の監事新海伍郎氏が奉仕する旨報告された。

次いで平成五年度氏子会費についての説明が事務局

# 十一月の各種神賑行事

- 【ご案内】
- 宗像大社本部の方々が、笛と小鼓の音に連れて、翁舞を奉納。秋晴れの神祝にしばしの静寂が漂い、参列者はかたずを呑み、真剣なまなざしで見入っていた。一方境内は週末とあって、参拝者の波は夜遅く迄続いた。
- 三日、午前十一時終社祭が行われ、玄海中学校生徒が古式ゆかりの十二軍衣姿で浦安舞を奉納、優雅な舞姿を披露した。
- 終社祭に引き続き高宮祭第二宮、第三宮祭、宗像大社、国神社秋祭大祭を進行、多数の遺族、参列者の外、県議市長村長、議会議長も参列して、護国の英霊に対し敬虔な祈りを捧げた。
- 午後一時からは南坊流による献祭が行われ、神楽とばさも鮮やかな御点前で濃茶を立て、神前に奉納された。
- 三日間に亘る秋祭大祭は、好天に恵まれ無事終了した。
- 第七回 宗像名刀展  
菊と刀といえ、古来から日本を象徴してきたよう。刀には日本人の心をひきつける魅力があります。今年も多く、宗像の方々の御協力を得て、鎌倉時代から現代までの直刀・大刀・短刀・脇差・槍等の名刀剣類を展示いたします。
- 第九回 奉納吟剣詩舞大会  
この吟詠大会は本部を熊本市に置く、会長長中嶋山社中の役員が、神前にて詩・剣舞を奉納。清らかなる、数多の吟剣詩舞が披露されます。
- 第十回 秋祭大祭奉納盆踊大会  
秋の盆踊は、宗像大社奉納盆踊会の役員が、日頃丹誠した秘蔵の盆踊約五百席を展示いたします。
- 第十一回 奉納柔道大会  
宗像郡市内中学校の二年生約七十名が出場、参観選手たちは母校の名譽と日頃の成果を發揮せんものと対戦、力一杯の奮戦が繰り広げられます。
- 第十二回 奉納剣道大会  
宗像郡内の各剣道教室や学校で稽古した男女、小学生から大人迄の男女剣士七百余名が出場、宗像地区最高剣士の榮譽を賭けて熱戦を繰り広げます。
- 第十三回 宗像大社本因坊戦  
宗像地区囲碁界力ナンパーワンを決める大会で、宗像郡市内より囲碁愛好者百数十名の有志者が出場、五段以上の実力者による本因坊戦と、一般参加選手による有段者の部とが各々行われます。
- 第十四回 奉納柔道大会  
宗像郡市内中学校の二年生約七十名が出場、参観選手たちは母校の名譽と日頃の成果を發揮せんものと対戦、力一杯の奮戦が繰り広げられます。
- 第十五回 奉納盆踊大会  
秋の盆踊は、宗像大社奉納盆踊会の役員が、日頃丹誠した秘蔵の盆踊約五百席を展示いたします。
- 第十六回 奉納柔道大会  
宗像郡市内中学校の二年生約七十名が出場、参観選手たちは母校の名譽と日頃の成果を發揮せんものと対戦、力一杯の奮戦が繰り広げられます。
- 第十七回 奉納盆踊大会  
秋の盆踊は、宗像大社奉納盆踊会の役員が、日頃丹誠した秘蔵の盆踊約五百席を展示いたします。
- 第十八回 奉納柔道大会  
宗像郡市内中学校の二年生約七十名が出場、参観選手たちは母校の名譽と日頃の成果を發揮せんものと対戦、力一杯の奮戦が繰り広げられます。
- 第十九回 奉納盆踊大会  
秋の盆踊は、宗像大社奉納盆踊会の役員が、日頃丹誠した秘蔵の盆踊約五百席を展示いたします。
- 第二十回 奉納柔道大会  
宗像郡市内中学校の二年生約七十名が出場、参観選手たちは母校の名譽と日頃の成果を發揮せんものと対戦、力一杯の奮戦が繰り広げられます。

## 神郡の秋祭り

織幡神社  
十月一日、玄海町鐘崎に鎮座する、織幡神社、宮司水島俊二の秋祭大祭神幸祭が、午後六時半より進行された。

織幡神社は神功皇后が三韓討伐の折に、軍船にかかると、神に託され、古来、宗像大社と共に各神大社に列せられ、皇室の篤い崇敬をうけられた由緒ある神社で

ある。爾來、千数百年の間女界津羅の接点の海上交通の難所にあつて、航海安全の守護神として御神威を發揚されてきた。毎年四月十六日と十月一日に大祭が行われ、この十月の祭典は、織幡の神が佐屋形山頂の本殿より下り、御來に奉られる御神輿は、山麓の御旅所に着かれ、神前に盛沢山の神賑をお供

織幡神社  
十月五日、津屋崎町奴山に鎮座する、織幡神社、宮司水島俊二の秋祭りが進行された。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、石段を登り、樹木に囲まれた小高い所に鎮座する同神社に氏子関係者多

草が寄せられ、著名な斯界指導者の先生方を選者としてお招きし、講評・指導を受けると共に、参加者相互による批評、感想を發表する。選者の先生方と参加者が一体となった大会です。

開始時間 午前十時より  
期日 十一月十三日  
会場 清明殿

宗像大社本部の方々が、笛と小鼓の音に連れて、翁舞を奉納。秋晴れの神祝にしばしの静寂が漂い、参列者はかたずを呑み、真剣なまなざしで見入っていた。一方境内は週末とあって、参拝者の波は夜遅く迄続いた。

三日、午前十一時終社祭が行われ、玄海中学校生徒が古式ゆかりの十二軍衣姿で浦安舞を奉納、優雅な舞姿を披露した。

終社祭に引き続き高宮祭第二宮、第三宮祭、宗像大社、国神社秋祭大祭を進行、多数の遺族、参列者の外、県議市長村長、議会議長も参列して、護国の英霊に対し敬虔な祈りを捧げた。

午後一時からは南坊流による献祭が行われ、神楽とばさも鮮やかな御点前で濃茶を立て、神前に奉納された。

三日間に亘る秋祭大祭は、好天に恵まれ無事終了した。

# 伽倻を訪ねて

一誌一話 (28)

沖ノ島祭祀の中でも、四一五世紀代の岩上祭場と、六一七世紀代の岩陰の祭場には、鉄鍬が奉獻されている。

朝鮮半島から鉄製品が多数に渡ってきた北部九州では、二〇〇年前の弥生時代中期前半頃から、「石の文化」「青銅の文化」と「鉄の文化」が一緒になって、社会生活文化が大きく飛躍してくる。

古墳時代になると、製造鉄鍬などにその例をみる。鉄製品と同時に鉄鍬も多数に渡ってくる。このことは古墳時代前期の近畿地方における大型古墳の副葬品の中に、鉄鍬が加えられていることからも分かる。

鉄鍬とは鉄製品を作るための鉄の原料材である。一枚が厚さ五mm程度であるが、幅約一〇cm・長さ約五〇cmと大形の物が、幅二一三cm・長さ一〇〇cm程の小形の物もある。全てが長方形で両端に広がりを持つ撥形である。

延喜式に「鐵(まがね)」と書いて記述されている。伊勢大宮の神衣(かんみそ)祭や九月の神嘗(かんなめ)祭などの供獻品とされている。また神宮の神玉(かみたま)の中に「鐵(まがね)五廷(てい)一兩(りやう)二五(ご)廷(てい)」とあり、神玉類製作に費やされる量は量も記述されている。

「廷」とは量目の単位であるが、一廷が十枚、括弧でありますが、五枚一括りであったか、延喜式に記述されている。沖ノ島の登り口、正三位社前遺跡の五世紀代に比定される埋納遺構から、土師器と一緒に鉄鍬が積み重なった状態で出土している。こ

こでも鉄鍬が束ねた形で数量を計っていたことが分かる。

西暦一〇〇年代の朝鮮半島は三国時代である。三国の中でもこの頃は、弁韓(備前)・辰韓(百濟)との往來が多く、倭国は隣国から鉄を輸入して、ここに至って倭国も鉄文化が定着してくる。このようにして、稲作に必要な農耕具にも鉄製品が利用されたし、より一層の農耕文化を生む。

朝鮮半島の鉄文化圏は弁韓の地域にあたるが、此の所は伽倻六国連合を指す。その中心が任那といわれた金官伽倻であり、今の金海市の辺りである。三六九年に任那には日本府が設置されるが、五六二年には古代朝鮮を統一した新羅によって滅ぼされる。

大和国は新たな文化をもたらした鉄鍬と、製鉄技術として進むが、その根拠は鉄の文化圏を形成し、四世紀後半から六世紀中葉と約一五〇年間の倭国との関わりがより深かった。伽倻連合国である。

伽倻の古跡を訪ねて半島内陸へと足を踏み入れていく。

朝鮮半島の南端の韓国、金海国際空港に立ち寄り、海州市・晋州市・高靈市・光州市・広州市と伽倻と百濟文化の国々を北上しながら、南で来た文化を訪ね、ソウルから内陸へと入り、ソウルから金浦国際空港から帰国する旅である。



